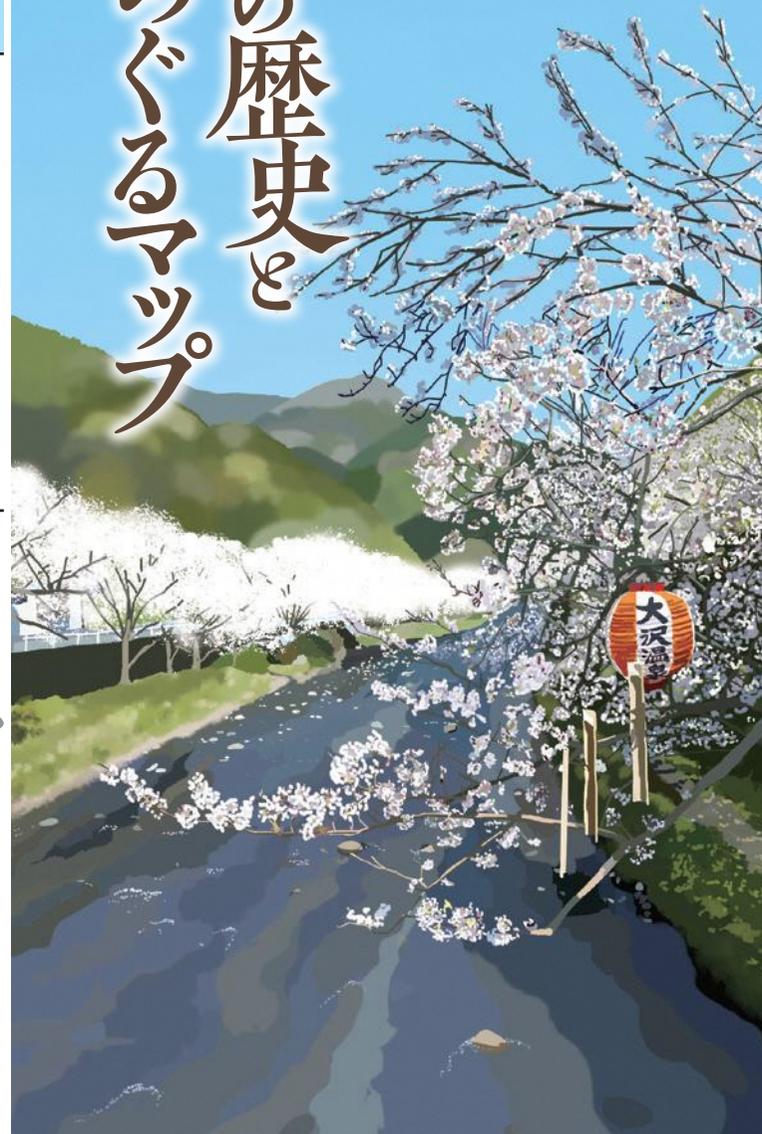


大沢地区

三聖の歴史と花をめぐるマップ



松崎町ってどんなまち?

松崎町は、「日本で最も美しい村」連合に加盟していて、まわりを海や山、田園に囲まれた落ち着いた風情あるまちなみを有しているまちです。町内には、漆喰と瓦を用いた「なまこ壁」の建物が約190棟存在しています。



なまこ壁とは?

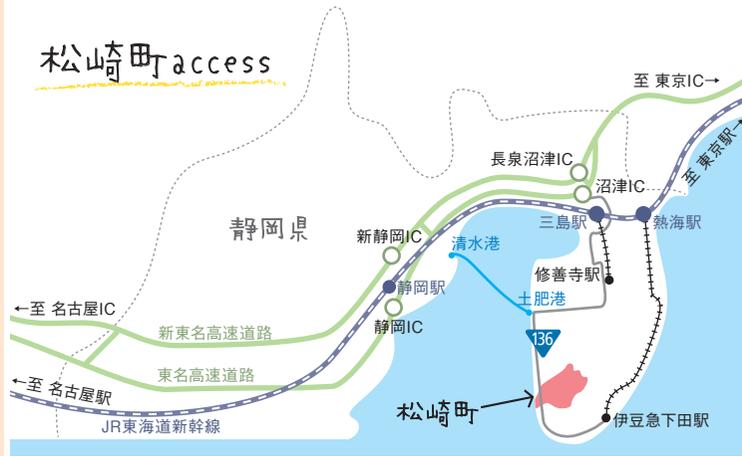
「なまこ壁」は、平瓦を壁に貼り付け、瓦と瓦の間である目地を漆喰で盛り上げるスタイルで、海の生き物「なまこ」のように見えることからその名前がつけました。防火性、保温性、保湿性に優れています。建物の壁を塗る職人を左官と呼びますが、松崎町は、幕末から明治にかけて活躍した左官の名工「入江長八」のふるさとでした。

入江長八ってどんなひと?

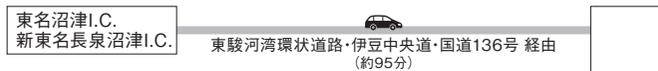
長八は、文化十二年(1815)伊豆国松崎村(現在の松崎町)に生まれました。幼くして左官の弟子となり、十代で江戸に出たのちに、狩野派の絵を学びながら彫塑技術を習得した彼は、「漆喰こて絵」と呼ばれる新しい分野の技術を確立しました。こて絵自体は江戸中期から徐々に盛んになっていたようですが、それまで左官職人の一技術に過ぎなかった漆喰装飾を芸術の域にまで高めたことで、入江長八の名は、広く全国に知られることになりました。

長八作品は、松崎町にある「伊豆の長八美術館」の展示をはじめ、長八が活躍した各地に所蔵されています。

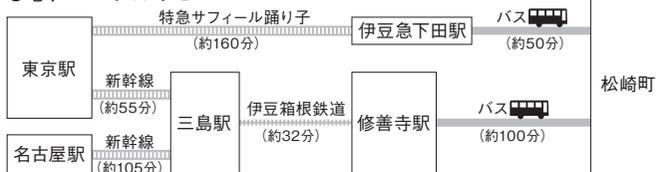
松崎町access



●車でのアクセス



●電車・バスでのアクセス



●フェリーでのアクセス



大沢access

●バスでのアクセス



このMAPは地区住人とつくりました。

中川が誇る3人の偉人

幕末の漢学者で偉大な教育者であった土屋三余、産業・農業・海運・教育に多大な貢献をした実業家の依田佐二平、北海道・十勝原野（現帯広市）開拓の先駆者依田勉三。松崎町ではこの3人の偉人を、「中川三聖」と呼んでいます。（松崎町発行「花とロマンの里 松崎を歩く」より）



土屋三余

三余は、幕末、武士に苦みられる農民の姿を憂い、伊豆松崎町に「三余塾」という塾を開きました。松崎町を始め、各地から生徒を受け入れて農民の地位向上を目指した教育に力を注ぎました。



依田佐二平

養蚕業の近代化をはかり、松崎製糸場を設け、品質改善と生産能率を向上させました。また豆陽学校（現在の下田高校）や、海運振興を目指し豆海汽船会社を設立。依田邸から川舟で炭・生糸を下田や江戸まで運びました。



依田勉三

依田佐二平の弟で、北海道の十勝原野開拓の先駆者です。勉三が率いた晩成社で製造していた「マルセイタ」にちなんで「マルセイターサンド」が北海道帯広市の銘産品になっています。

大沢の歴史をめぐる

大沢地区と、土屋三余、依田佐二平、依田勉三の歴史をたどり、おすすめのスポットを紹介します。

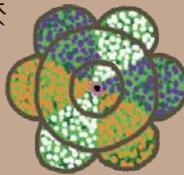
道の馬車 花の三聖苑

敷地内には、中川三聖を中心とした松崎の歴史・文化の紹介が展示されている三聖会堂があります。また、依田佐二平が私財を投じて、明治6年に開校した小学校「大沢学舎」を復元した建物があります。

時 9:00～17:00（三聖会堂・旧大沢学舎）

¥ 見学無料 ☎ 0558-42-3420

住 松崎町大沢20-1



那賀川の川舟

丸太など林産物の運搬のため、中川から松崎までの系約6kmの距離を川舟で運んでいました。依田家は、幕末の頃から川舟で物資の運搬をしていました。明治40年に県道下田松崎線が開通すると馬力運送が盛んになって川舟の数も次第に少なくなりましたが、川舟の時代はその後しばらく続いたようです。

県指定文化財 旧依田邸

江戸時代中期元禄期の建物が現在も残っていて、なまこ壁住宅としては賀茂地域では最古のものとされています。道具蔵の壁には、入江長八が作ったと云えられる橘の家紋の漆喰こて糸会があります。歴史資料館として依田家のかつての繁栄を垣間見ることができます。

依田家は、江戸時代には木炭生産と廻船業を、明治時代になると佐二平が生糸生産を行っていました。

時 10:00～16:00（10～3月は15:00まで）

¥ 無料 休 木曜

☎ 0558-76-0030 住 松崎町大沢153



依田邸近くの那賀川沿いに、依田佐二平像が立っています。足を運んでみてはいかがでしょうか。

山神社

佐二平が造営した神社です。

祭神は大山祇命、仁徳天皇、猿田彦命で、商売繁盛などの御利益があります。土日・祝日には開帳し、幸運太鼓をたたくこともできます。

レンガ造りの囲い堀や人の顔に見えるコブがついたタブノキ、イチヨウの大木（紅葉スポット）、カ石、まゆの石碑などの見所もあります。



大沢砦跡

山神社の裏にある高さ40m程の小山が大沢砦跡です。曲輪や土塁、堀切が残っています。天正18年に豊臣水軍が松崎に上陸して、下田に進撃する途中で大沢砦に立てこもる軍勢を打ち破るべく、岩城から攻撃したという伝承が残っています。

玉林寺

墓地の中央に一際目立つ立派な墓群、大沢の大家依田家の墓戸所があります。佐二平と勉三の墓もここにあり、勉三の墓石には戒名の「晩成院帯水浄源居士」が刻まれています。寺の入口にはカサバタのできる皮膚病に御利益があると言われるカサ地蔵や子どもを抱いた子安地蔵、六地蔵があります。